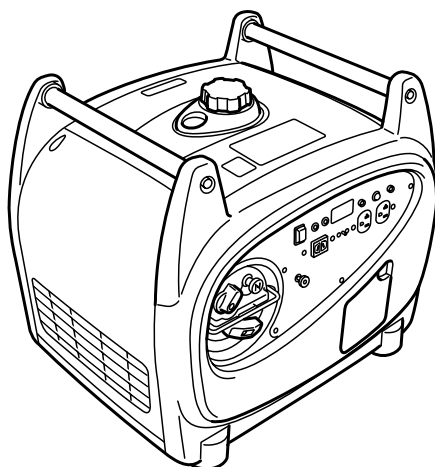
Hitachi Koki

日立エンジン発電機

E 20U

取扱説明書

このたびは日立エンジン発電機をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。

排出ガス自主規制
適合証

HITACHI

目　次

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠ **警告**」、「⚠ **注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ：**誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠ **注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ：**製品の据付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

エンジン発電機の安全上のご注意

- **火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。**
- **ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。**
- **お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。**

⚠ 警　告

全般的なこと

① 使用現場の周囲の状況に考慮してください。

- 発電機の運転を雨中で行なったり、湿った、または、ぬれた場所で行なわないでください。感電の恐れがあります。
- 作業場は十分に明るくしてください。
  暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- 可燃性の液体やガス、または、かれ草など燃えやすいものの近くで発電機を運転しないでください。
  爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

② 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、発電機に触れさせないでください。
- 作業者以外、作業場に近づけないでください。
  けがの原因になります。

③ 指定された用途以外に使用しないでください。

事故やけがの原因になります。

④ 子供や取扱説明書をよく読んでいない人、または取扱いに不慣れな人には発電機を使用させたり、貸さないでください。

⑤ 火気に注意してください。

- 使用燃料のガソリンは引火しやすいので、火気を近づけないでください。
- 運転中は燃料タンクのキャップをはずさないでください。
- 発電機に接続する電気器具は、発電機から離れた場所で使用してください。
  爆発や火災の原因になります。

⑥ 感電に注意してください。

- 必ずアース（接地）してください。
- ぬれた手で発電機を操作しないでください。
- コンセントにピンや針金などの金属物を入れないでください。
- 点火プラグ・プラグキャップ・高圧線まわりに触れないでください。
  感電の恐れがあります。

⚠ 警　告

⑦ **電力会社の配線に接続しないでください。**
火災や感電事故の原因になります。

⑧ **排気ガスに注意してください。**
- 建物、トンネル、マンホール、井戸、船倉、タンクなどの内部や換気の悪い所で発電機を運転しないでください。
  排気ガスに含まれている有毒成分を吸引して、ガス中毒になったり、窒息の原因になります。
- 排気ガスがたまらない風通しの良い場所に、排気を向けてください。また、建物、その他の設備に排気を向けないでください。
  排気ガスが停滞したり、建物、その他の設備の中に充満するとガス中毒や窒息の原因になります。

使　用　前

① **使用前に、各部を点検してください。**
- 機体に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- 部品の破損・取付け状態、ガソリンの漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響をおよぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。
- 異常がある場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理を依頼してください。

② **平らな場所に置いて運転してください。**
移動して、けがや火災の原因になります。

③ **ガソリンやオイルを補給するときは注意してください。**
- エンジンを停止後、機体が冷えてから補給してください。
- 火気を近づけないでください。タバコを吸わないでください。
- ガソリンやオイルは規定量を超えて補給しないでください。
- ガソリンがこぼれたら、よくふき取ってください。
  爆発や火災の原因になります。

④ **発電機の過熱に注意してください。**
- 発電機は建物、その他の設備から１m以上離して運転してください。
- 発電機のまわりを囲ったり、カバーをかぶせたまま運転しないでください。
  火災や事故の原因になります。

⑤ **始動する場合は注意してください。。**
- コンセントに電気器具が接続されていないことを確かめてから、始動してください。
  不用意な始動は感電やけがの原因になります。

⚠ 警　告

使　用　中

① **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類には電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、電気器具会社に相談してください。**

② **油断しないで十分注意して使用してください。**

- 取扱方法、作業のしかた、周りの状況など十分注意して慎重に使用してください。
  軽率な行動をすると、事故やけがの原因になります。
- 常識を働かせてください。
  非常識な行動をすると、事故やけがの原因になります。
- 疲れているときは、使用しないでください。
  事故やけがの原因になります。

③ **無理して使用しないでください。**

- 安全に能率よく作業するために、発電機の能力に合った負荷で使用してください。
  過負荷で使用すると過熱し、火災の原因になります。

④ **運転中は機体を移動したり、傾斜させないでください。**

転倒して、けがや火災の原因になります。

⑤ **運転中や停止直後はマフラの周辺に触れないでください。**

マフラの熱で火傷する恐れがあります。

⑥ **次の場合は、エンジンを止めてください。**

- 使用しない、または、点検・修理する場合。
- その他、危険が予想される場合。
  運転したままでは、思わぬ事故の原因になります。

⑦ **使用中、機体の調子が悪かったり、異常音・異常振動がしたときは、直ちにエンジンを止め、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに点検・修理を依頼してください。**

そのまま使用していると、けがや火災の原因になります。

⚠ 警　告

使　用　後

① 運転しない場合は、燃料コックを閉じてください。
キャブレタから燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。

② 使用しない場合は、きちんと保管してください。
- エンジンスイッチは「STOP」（停止）の位置にして保管してください。
- ガソリン、オイルを抜取り、乾燥した場所で子供の手の届かない所、または鍵のかかる所に保管してください。
事故の原因になります。

③ ガソリンやオイルは安全な容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。
事故の原因になります。

④ 修理は、専門店に依頼してください。
- この製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
- 修理は、必ずお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申しつけください。
ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

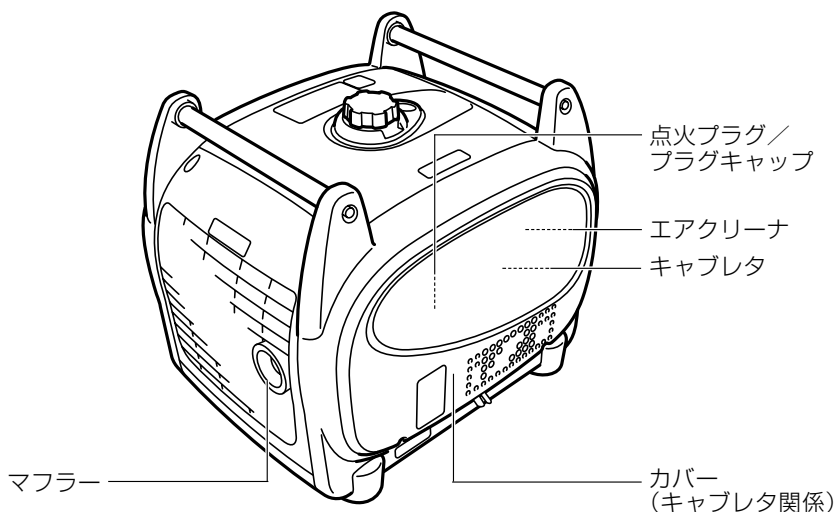
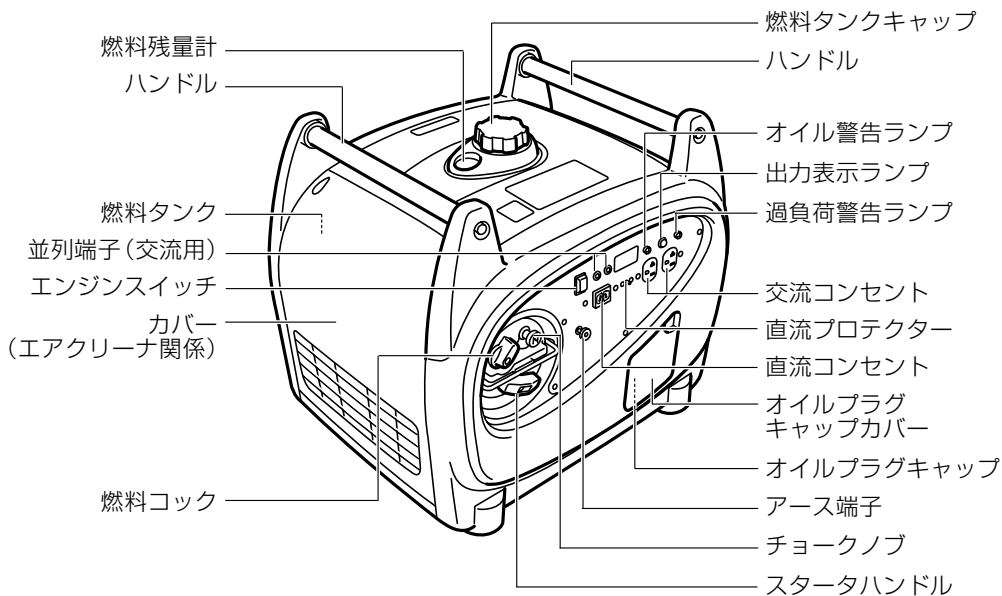
⚠ 注　意

① 作業場は、いつもきれいに保ってください。
ちらかった場所は、事故の原因になります。

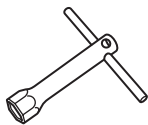
② 都道府県などの条例で定める工場または事業所で使用する場合は、各条例で定める騒音規制値以下でご使用ください。

③ トラックなどで機体を運搬するときは、倒れ止めをしてしっかり固定し、静かに運搬してください。
運搬中に動いて、思わぬ事故の原因になります。

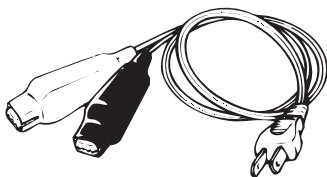
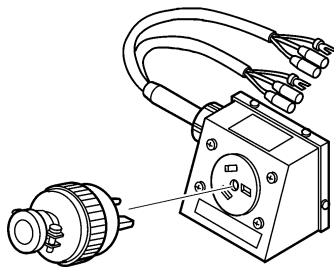
各部の名称

燃料残量計
ハンドル
燃料タンク
並列端子（交流用）
エンジンスイッチ
カバー
（エアクリーナ関係）
燃料コック
燃料タンクキャップ
ハンドル
オイル警告ランプ
出力表示ランプ
過負荷警告ランプ
交流コンセント
直流プロテクター
直流コンセント
オイルプラグ
キャップカバー
オイルプラグキャップ
アース端子
チョークノブ
スタータハンドル
点火プラグ／
プラグキャップ
エアクリーナ
キャブレタ
マフラー
カバー
（キャブレタ関係）

仕　　　様

項目 ＼ 形名			E 20U
発電部	交流	定格出力周波数	50 Hz ／ 60 Hz（切替式）
		定格出力	2.0 kVA
		定格電圧	100 V
		定格電流	20 A
		並列接続時定格出力	3.8 kVA
		並列接続時定格電流	38 A
	直流	定格電圧	12 V
		定格電流	8 A
	発電機方式		多極回転界磁形
	電圧調整方式		インバータ式
	励磁方式		自己励磁式
	力率		1.0
	交流コンセント数		2
	交流過電流保護装置		電子式
	直流コンセント数		1
	直流過電流保護装置		直流プロテクター
エンジン部	エンジン種類		強制空冷 4 サイクルガソリンエンジン
	排気量		171 mL（171 cc）
	使用燃料		無鉛ガソリン
	燃料タンク容量		6.0 L
	エンジンオイル		API 分類SE級エンジンオイル（SAE 10W－30）
	エンジンオイル規定量		0.60 L
	連続運転時間		約 8.6 ～ 5.0 時間（1/4 負荷～定格負荷）
	始動方式		リコイル式
	点火方式		TCI
	点火プラグ		NGK　BPR4ES
騒音値（7 m、4 方向平均）			54 ～ 59 dB（A）（1/4 負荷～定格負荷）
質量			32 kg
寸法			全長 527 ㎜ × 全幅 419 ㎜ × 全高 461 ㎜

標準付属品

点火プラグ用ソケット ・・・・・・・・・・・・・・ 1個

別 売 部 品

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ （別売部品は生産を打ち切る場合がありますので、ご了承ください。）

チャージコードアッセンブリ（コードNo. 682974）

並列コード〔さし込みプラグ付〕（コードNo. 326800）

用　　途

交流電源

⚠ 警　告

- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類には電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、電気器具会社に相談してください。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。**
- **医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院等に確認のうえご使用ください。**

使用電源が単相交流、電圧 100 V 仕様の次の電気器具に使用できます。

○ 各種電動工具類の電源
○ 各種汎用モーター使用機器の電源
○ ラジオ、テレビ、ステレオなどの電源
○ 各種照明器具および電熱器の電源

使用範囲

使用できる電気器具の消費電力（W）の範囲は次の表の通りです。

電気器具	電球・電熱器・ラジオ・テレビ・ステレオなどの場合	電動工具類の場合	汎用モーター使用機器、水銀灯・ハロゲン灯の場合
使用範囲	2000 W	1600 W程度まで	400 W程度まで
備　　考	力率＝1.0	力率＝0.8～0.95	力率＝0.4～0.75

⚠ 注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の使用範囲を超えた過負荷で使用しないでください。**
  発電機損傷の原因になります。

注
- 周波数は 50 Hzと 60 Hz の切替式になっています。エンジンを始動する前に接続する電気器具に合わせて切替えてください。
- 電動工具の消費電力は機体に表示してあります。ご不明の場合は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 汎用モーター類（誘導電動機）には消費電力の表示がなく、出力を表示しているものがあります。このときはお買い求めの販売店に消費電力をお問い合わせください。目安として消費電力は出力の約 2 倍です。
- 電動工具類・汎用モーター類で起動電流が大きい場合、あるいは負荷のかけすぎの場合は消費電力が通常より大きくなり、過負荷警告ランプ（赤色）が点灯し電気の供給を遮断します。その場合は前ページの表より消費電力の小さいものを使用してください。

直流電源（12 V バッテリ充電専用）

⚠ 警　告

- 12Vバッテリ充電以外に使用しないでください。

40 AH、1/2（ハーフ）放電状態のバッテリを充電できるようになっていますので、これよりも容量の小さいバッテリの充電に使用できます。

使用範囲

12 V － 8Aまで

注
- バッテリの補充電はバッテリの放電状態により充電時間が異なります。バッテリの比重が 1.26 ～ 1.28 になると充電完了となりますので、できるだけ 1 時間おきぐらいに比重をチェックしてください。
  例えば 40AHの小型乗用車のバッテリですと、1/2（ハーフ）放電状態から約 5 時間でほぼ良好な状態になります。
- バッテリの充電は必ずバッテリの液量を確認してから行なってください。
- 使用中に定格以上の電流が流れると直流プロテクターが作動します。その場合は接続されている負荷を発電機の使用範囲以内にしてください。

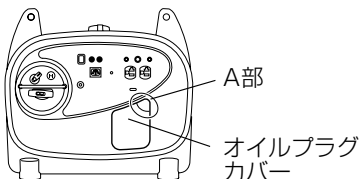
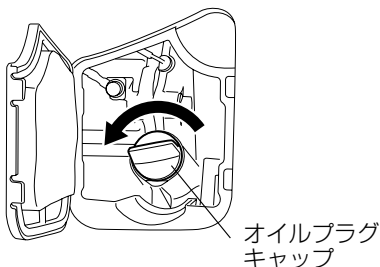
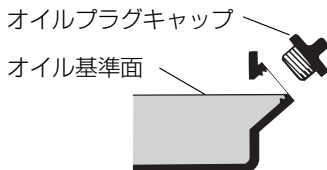
作業前の準備

⚠ 警　告
• エンジンを始動する前に、必ず次のことを確認または準備してください。

1．作業環境の整備・確認

作業をする場所が注意事項にかかげられているような適切な状態になっているかどうか確認してください。

発電機は水平を保てる場所に置いてください。

2．エンジンオイルの給油および確認

エンジンオイルは抜いて出荷しています。
A部に指をさし込み、オイルプラグカバーを手前に開いてください。
オイルプラグキャップをはずし、下記の自動車用 4 サイクルオイルを注入口の口元まで規定量給油してください。

- 使用オイル
  4 サイクルオイル
  API分類SE級エンジンオイル
  SAE 10 W－30　SE級
- エンジンオイル規定量
  600 mL

エンジンオイルがこぼれたときはきれいにふき取ってください。
エンジンオイルを給油した後は、オイルプラグキャップをしっかりと締めてください。

3．オイル警告装置について

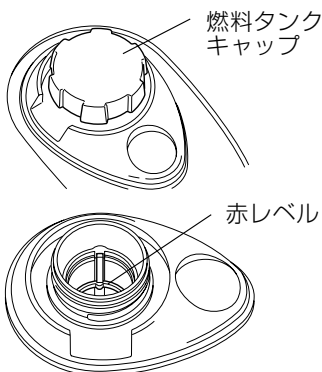
この機体にはオイル警告装置が取付けられています。
この装置はエンジンオイルが少なくなって潤滑不足になる前に、オイル警告ランプ（赤色）を点滅させるとともに自動的にエンジンを停止させます。
オイル不足でエンジンが停止したときは、スタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。

また、始動時にエンジンオイル量が少なくなっているとスタータハンドルを引いてもオイル警告ランプ（赤色）が点滅しエンジンは始動しません。
オイル警告ランプ（赤色）が点滅したときはエンジンオイルを給油口の口元まで補給してください。

注 **• この装置はエンジンオイルの量に対しては作動しますが、エンジンオイルの汚れに対しては作動しません。オイル交換は初回 20 時間めに行ない、その後 100 時間ごとに実施してください。**
• エンジンが自動的に止まったら修理依頼をする前に、まずエンジンオイルの量を確認し、少なくなっている場合はエンジンオイルを補給してください。

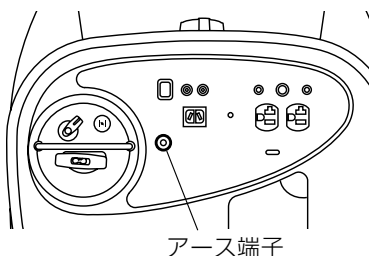
4．ガソリンの給油

⚠ 警　告

• 火気を近づけないでください。タバコを吸わないでください。
• エンジンを停止後、機体が冷えてからガソリンを給油してください。
• 燃料タンクには外気との間に圧力差が生じています。燃料タンクキャップを少しゆるめて圧力差を取り除いてから開けてください。
• ガソリンは燃料タンク注入口の赤レベル以上に入れないでください。

自動車用の無鉛ガソリンを燃料タンク注入口の赤レベルまで給油します。

ガソリンがこぼれないように注意し、こぼれたときは燃料タンク・機体まわりをきれいにふき取ってください。

ガソリンを給油した後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。

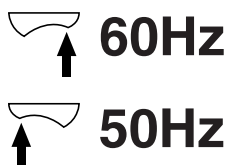
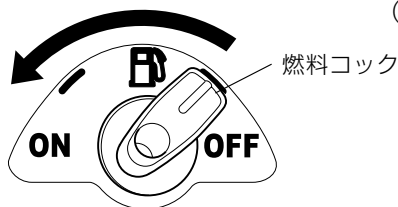
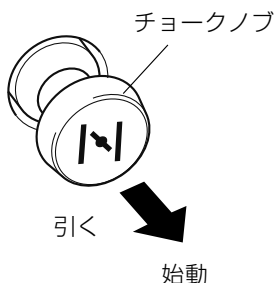
5．アース

機体のアース端子にアース線を接続し、先端を地中に埋められた接地極にアースしてください。

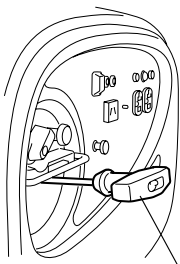
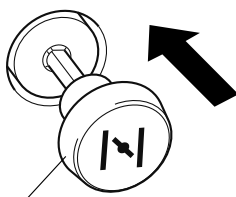
使　い　方

1．始　動

⚠　警　告

- **機体に損傷がないか、正常に作動するか、所定機能を発揮するか確認してください。**
- **部品の破損・取付け状態、ガソリンの漏れ、電気配線のいたみ、その他、運転に影響をおよぼすすべての箇所に異常がないか確認してください。**
- **屋内や換気の悪い場所で始動したり、作業しないでください。**
- **コンセントに電気器具が接続されていないことを確認してください。**

（1）周波数切替スイッチを接続する電気器具の周波数に合わせて 50 Hzまたは 60 Hzに切替えます。

注
- **購入直後、周波数切替えスイッチは 50 Hzにセットされています。**
- **周波数の切替えはエンジンが停止中に行なってください。**

（2）燃料コックを「ON」（開）にします。

（3）チョークノブを引いて始動の位置にします。

注
- **エンジンが暖まっているときは、チョークノブを始動にする必要はありません。**

（4）エンジンスイッチを「ON」（入）にします。

スタータハンドル

（5）機体が横転しないように手で押さえます。スタータハンドルを軽く引き出し、スタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引っぱります。

注
- **スタータハンドルはロープ引き出し口の方向にならって、まっすぐ引いてください。**
- **ロープはいっぱいに引き切らないでください。**
- **スタータハンドルを引いた後、手を離さず、静かに戻してください。**

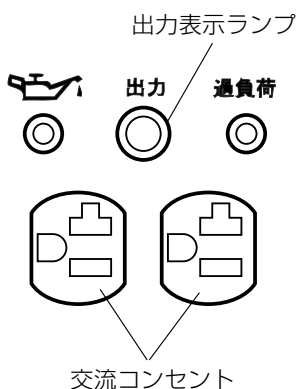
スタータハンドルを数回引いてもエンジンが始動しないときは、チョークノブを「運転」に戻してスタータハンドルを引いてください。

（6）エンジンが始動したら、チョークノブを徐々に「運転」に戻し、しばらく暖気運転をします。

注
- **気温が約 3 ℃以下の場合は、自動的にエンジン回転数が約 3,200 min^{-1}に上昇し、約 3 分間暖気運転をします。**
  その後自動的に低速運転に切替わります。

2．運　転

交流電源として使用する場合

⚠　警　　告
• 電気器具を接続する前に、電気器具のスイッチが「切」になっていることを確認してください。 • 発電機は接続された電気器具の負荷の変化に合わせて電圧が変化しますので電圧変化に敏感な電気器具は使用しないでください。 接続の可否が不明確な場合は電気器具会社に相談してください。

（1）出力表示ランプ（緑色）が点灯していることを確認してください。

（2）電気器具のさし込みプラグを交流コンセントにさし込みます。

2口合計消費電流　20 A

（3）電気器具の取扱説明書に従って、電気器具のスイッチを「ON」（入）にします。

⚠ 注　意

• 電気器具の合計負荷が発電機の使用範囲を超えた過負荷で使用しないでください。
発電機損傷の原因になります。

注 • 電気器具の消費電力が使用範囲を超えたときは、過負荷警告ランプ（赤色）が点灯し電気の供給を遮断しますが、エンジンは停止しません。このときは電気器具のスイッチを「OFF」（切）にしてさし込みプラグを抜き、電気器具に異常がないか、消費電力が 9 ページの表の使用範囲を超えていないか点検してください。
発電を再開するときは一度エンジンを停止し、再度エンジンを始動してから電気器具のスイッチを「ON」（入）にしてください。
• 電動工具類・汎用モーター類で起動電流が大きい場合、あるいは始めから負荷がかかっている場合、これらのモーターが始動しないことがあります。
2 個以上のモーター類を使う場合、同時に始動させないで、起動電流の大きいものから順次起動させてください。
• 電動工具類は負荷のかけかたで消費電力が通常の値より大きくなることがありますので注意してください。

直流電源として使用する場合（ 12 V バッテリ充電専用）

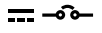
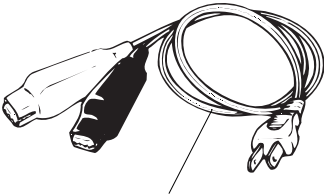
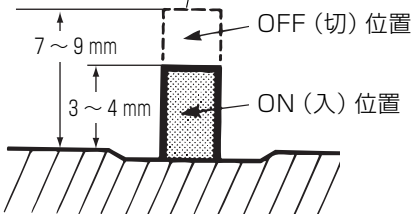
⚠ 警　告

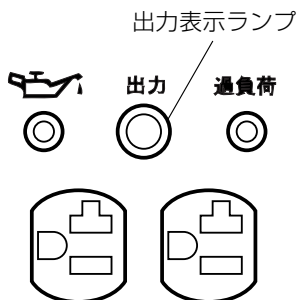
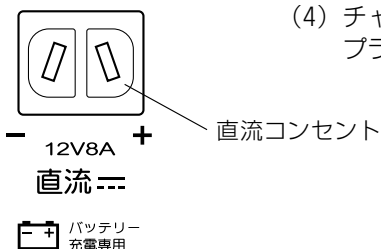
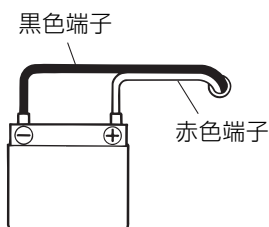
• 12 Vバッテリ充電以外に使用しないでください。
• 充電するバッテリの取扱説明書をよくお読みください。
• バッテリは引火性ガスを発生しますので、取扱いを誤ると爆発やけがの原因になります。バッテリ充電の際には次のことを厳守してください。
ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。
充電は風通しの良い場所で行なってください。
バッテリ液（希硫酸）の取扱いに注意してください。

⚠ 注　意

• バッテリへの接続には別売部品のチャージコードアッセンブリを使用してください。

（次ページへつづく）

⚠ 注　意

- **直流（DC）と交流（AC）を同時に取出さないでください。**
- **満充電になるための充電時間はバッテリの種類、放電状態（バッテリ液の比重）によって異なります。**

（1）別売部品のチャージコードアッセンブリ（コードNo. 682974 ）を準備します。

（2）直流プロテクターが「ON」（入）になっていることを確認します。
直流プロテクターが「OFF」（切）になっているときは押し込んで「ON」（入）にします。

注
- **直流プロテクターは通常「ON」（入）になっています。**
- **直流プロテクターを「ON」（入）にするときは必要以上に押さないでください。（左図参照）**

(3) 出力表示ランプ(緑色)が点灯していることを確認してください。

(4) チャージコードアッセンブリのさし込みプラグを直流コンセントにさし込みます。

黒色端子

赤色端子

(5) チャージコードアッセンブリの赤色端子をバッテリの⊕端子に接続します。

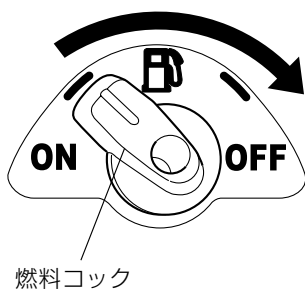
(6) チャージコードアッセンブリの黒色端子をバッテリの⊖端子に接続します。

⚠ 注 意

- **バッテリ充電中にバッテリを他の電気器具に接続して使用しないでください。**
- **バッテリ充電中に車のセルを回さないでください。**
  大電流が流れ、発電機ゼネレータ部分のコイル焼けの原因になります。
- **チャージコードアッセンブリの取りはずしは、エンジン停止後、取付けの逆順で行なってください。**

注 • **使用中に定格以上の電流が流れると直流プロテクターが「OFF」(切)となり、通電しません。このときは接続されている負荷を発電機の使用範囲以内にしてください。**
再運転するときは、直流プロテクターを押し込んで「ON」(入)にしてください。

3．エンジンの止めかた

（1）電気器具のスイッチを「OFF」（切）にします。
（2）電気器具のさし込みプラグをコンセントから抜きます。
（3）エンジンスイッチを「STOP」（停止）にします。

（4）燃料コックを「OFF」（閉）にします。

保守・点検

⚠ 警　告
• **点検・手入れは、エンジンを止めて機体が冷えた状態で行なってください。**
• **点検後は、すべての部品を確実に取付けたことを確認してください。**

次の要領で常に機体の手入れを心掛けてください。

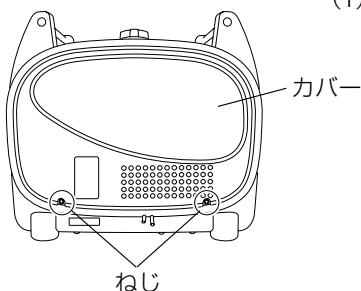
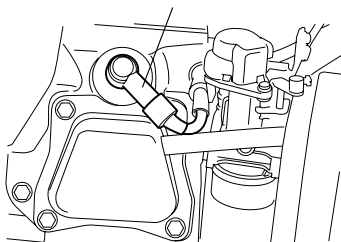
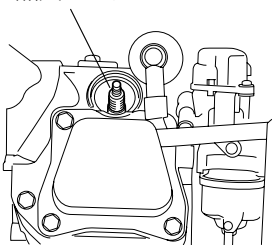
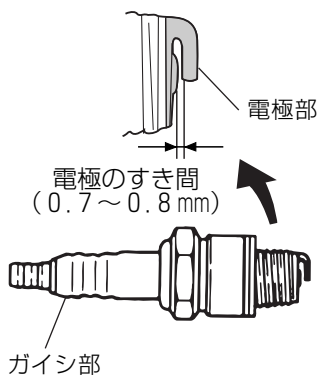
1．仕業点検

ご使用前に次の箇所を点検してください。
異常がある場合は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターに修理をお申しつけください。

① ガソリンの漏れ、量
② エンジンオイルの汚れ、漏れ、量
③ ボルト、ナット類のゆるみ
④ コンセントの損傷、スイッチ類の作動具合
⑤ スタータの作動、スタータロープの損傷
⑥ エンジンの始動性、異常音・異常振動

2．保守・点検方法

● 点火プラグの点検

(1) ねじをゆるめてカバーをはずします。

（2）プラグキャップをはずします。

（3）標準付属品の点火プラグ用ソケットを使用して点火プラグをはずします。

（4）電極部がよごれている場合はワイヤブラシなどでよく掃除してください。

（5）電極のすき間が所定の寸法（０．７～０．８㎜）でなかったり、電極部がひどく焼けて丸くなっていたり、ガイシ部にひびが入っているときは新品と交換してください。

注 **• 点火プラグは必ずNGK BPR4ESを使用してください。**

（6）取りはずしの逆順で、スパークプラグを取付けます。

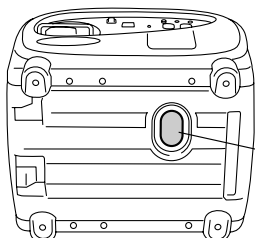
● エンジンオイルの交換

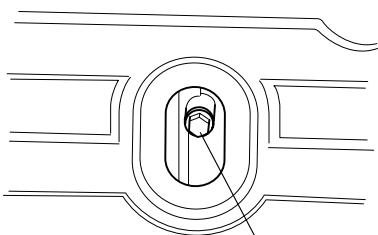
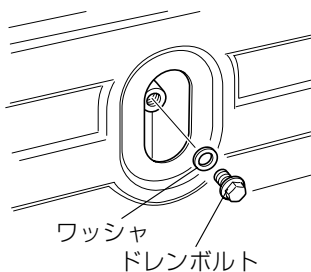
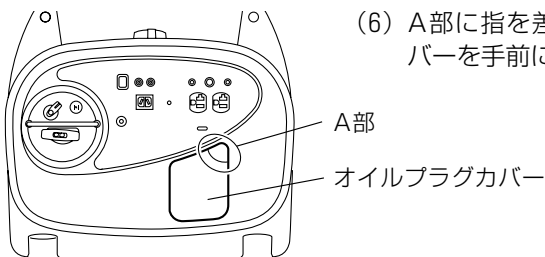
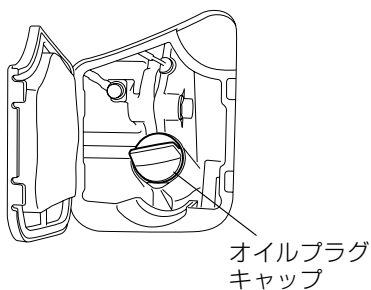
注
- 初回は 20 時間め、その後は 100 時間ごとに交換してください。
- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられています。

（1）排出するエンジンオイルを受け取る容器を準備してください。

（2）エンジンを 2 〜 3 分暖気運転し、エンジンを停止します。

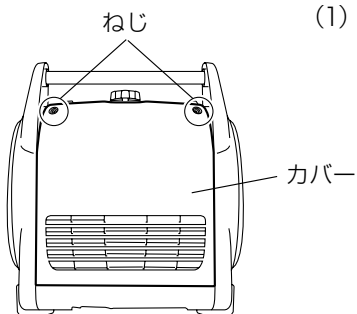
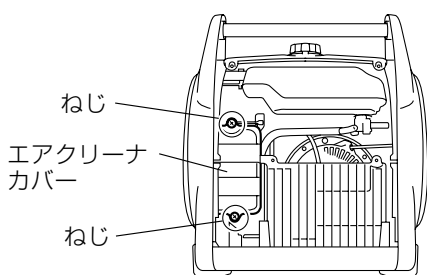
⚠ 警　　告

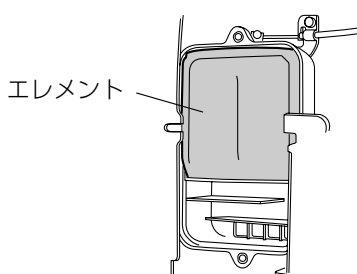
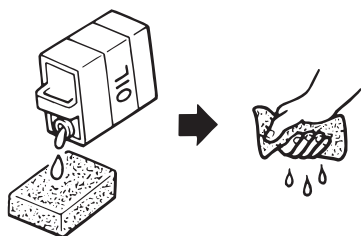
- **エンジン停止直後はエンジンオイルが熱くなっていますので、すぐには排出しないでください。**

（3）発電機本体を傾けて、底面に取り付いているラバーキャップをはずします。

ラバーキャップ

（4）ドレンボルトをはずし、エンジンオイルを抜きます。

(5) ドレンボルトにワッシャを通してからドレンボルトを締付けます。

(6) A部に指を差し込んで、オイルプラグカバーを手前に開きます。

(7) オイルプラグキャップをはずし、自動車用 4 サイクルオイルを注入口の口元まで規定量給油します。
(11 ページ参照)

(8) エンジンオイルを給油した後は、オイルプラグキャップをしっかりと締めてください。

● エアクリーナエレメントの掃除

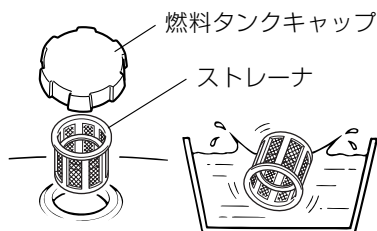
ほこりの多い場所で使用した場合は早めに掃除してください。

(1) ねじをゆるめてカバーをはずします。

(2) エアクリーナカバーを固定しているねじをはずします。

(3) エアクリーナカバーをはずします。

(4) エレメントをはずします。

(5) エレメントをきれいな洗浄油(白灯油)または混合油
(白灯油 2 ～ 4 ：エンジンオイル 1)で洗浄します。

(6) エレメントをエンジンオイルまたは混合油にひたします。その後、点滴しない程度に余分なオイルを取り除きます。

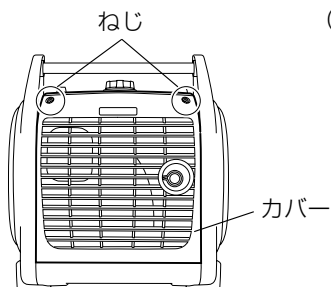
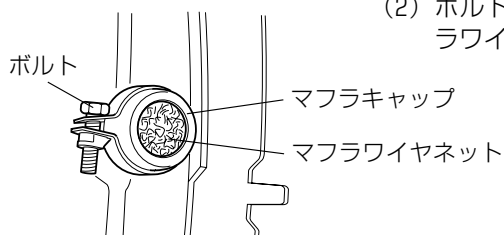
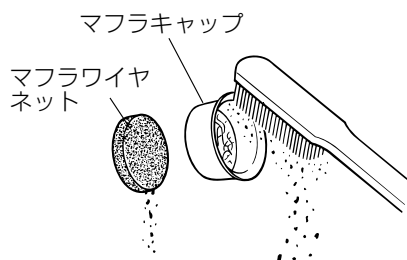
注 **• エレメントは破れますので、きつく絞らないでください。**

(7) エレメントをエアクリーナ本体にはめ込み、エアクリーナカバーをねじで取付けます。

● 燃料タンクフィルタの掃除

（1）燃料タンクキャップおよびストレーナをはずします。

（2）洗浄油（白灯油）または市販のパーツクリーナーを使ってストレーナを洗浄します。ストレーナが破損しているときは交換してください。

（3）ストレーナをふいて燃料タンクの給油口に挿入し、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。

● マフラの掃除

（1）ねじをゆるめてカバーをはずします。

（2）ボルトをゆるめてマフラキャップとマフラワイヤネットをはずします。

（3）ワイヤブラシを使用してマフラキャップとマフラワイヤネットのよごれを取り除きます。

3．定期点検

　１年に１度以上は、お買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにお申しつけ、定期点検を行なってください。

運 搬 方 法

⚠ 警　告

- **燃料タンクにガソリンを給油したまま運搬しないでください。**
- **発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。**

⚠ 注　意

- **倒れ止めをしてしっかり固定し、静かに運搬してください。**
- **発電機の上に物を置かないでください。**

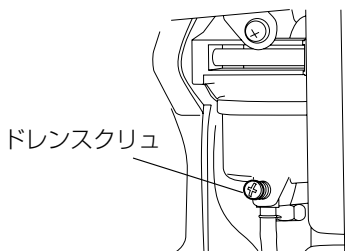
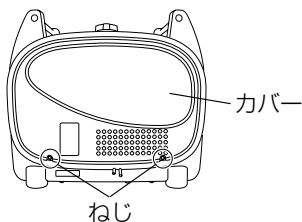
(1) エンジンスイッチを「STOP」(停止) にします。

(2) 燃料タンクキャップ、ストレーナをはずし、市販の給油ポンプを利用して燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
燃料を抜き取った後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。

(3) 燃料コックを「OFF」(閉) にします。

(4) 発電機をロープなどで確実に固定します。

保 管 方 法

長時間にわたって使用しないときは、次のように保管してください。

(1) エンジンスイッチを「STOP」(停止) にします。
(2) 燃料タンクキャップ、ストレーナをはずし、市販の給油ポンプを利用して燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
ガソリンがこぼれないように注意し、こぼれたときはきれいにふき取ってください。
燃料を抜き取った後は、燃料タンクキャップをしっかりと締めてください。
(3) エンジンスイッチを「ON」(運転) にします。
(4) 燃料コックを「ON」(開) にします。
(5) エンジンを始動し、燃料切れで停止するまで運転します。
(6) ねじをゆるめてカバーをはずします。
(7) キャブレタのドレンスクリュをゆるめて、キャブレタ内のガソリンを抜きます。
ガソリンがこぼれないように注意し、こぼれたときはきれいにふき取ってください。

注 • **キャブレタ内にガソリンが長時間残っていると、変質してキャブレタ内部を腐食させて始動不良になります。**

(8) エンジンスイッチを「STOP」(停止) にし、燃料コックを「OFF」(閉) にします。
(9) ドレンスクリュを締付けます。
(10) カバーを取付け、ねじを締付けます。
(11) 点火プラグをはずして、エンジンオイルをエンジン内に 3 ～ 5 mL 給油し、スタータハンドルを静かに数回引いた後、点火プラグを締付けます。
(12) スタータロープを引き、重くなった位置で止めます。
(13) 全体をよく掃除し、ほこり、雨水のかからない乾燥した場所に保管してください。
(14) 火気のない所に保管してください。
(15) ガソリンは安全な容器に入れ、乾燥した場所で子供の手の届かない所または鍵のかかる所に保管してください。

ご修理のときは

この機体は、厳密な精度で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合は、決してご自分で修理をなさらないでお買い求めの販売店または日立工機電動工具センターにご依頼ください。

ご不明のときは、裏表紙の営業拠点にご相談ください。

その他、部品ご入用の場合や取扱い上でお困りの点がありましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

この機体は、（社）日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

※（外観などの一部を変更している場合があります。）

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(No.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　　月　　日	販売店
製造番号(No.)	電話番号

■ 日立工機電動工具センターにご用命のときは、下記の営業拠点にお問い合わせください。

● 全 国 営 業 拠 点

営業本部　〒108-6020　東京都港区港南二丁目15番1号（品川インターシティA棟）
☎(03) 5783-0626(代)

北海道支店　〒060-0003　札幌市中央区北三条西四丁目（日生ビル）
☎(011) 271-4751(代)

東北支店　〒984-0002　仙台市若林区卸町東三丁目3番36号
☎(022) 288-8676(代)

東京支店　〒110-0016　東京都台東区台東四丁目11番4号（三井住友銀行御徒町ビル）
☎(03) 5812-6331(代)

中部支店　〒460-0008　名古屋市中区栄三丁目7番13号（コスモ栄ビル）
☎(052) 262-3811(代)

北陸支店　〒920-0058　金沢市示野中町一丁目163番
☎(076) 263-4311(代)

関西支店　〒530-0001　大阪市北区梅田二丁目6番20号（スノークリスタル）
☎(06) 4796-8451(代)

中国支店　〒730-0011　広島市中区基町11番13号（第一生命ビル）
☎(082) 228-0537(代)

四国支店　〒761-0113　高松市屋島西町字百石1981
☎(087) 841-6191(代)

九州支店　〒813-0062　福岡市東区松島四丁目8番5号
☎(092) 621-5772(代)

● 電動工具ご相談窓口 ── お買物相談などお気軽にお電話ください。

お客様相談センター　フリーダイヤル　0120-20 8822（無料）

※携帯電話からはご利用になれません。（土・日・祝日を除く　午前9：00～午後5：00）

電動工具ホームページ ── http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

日立工機株式会社

612
部品コード　C99156501
7CF－28199－0A